

クサガメ*Mauremys reevesii*を食べたのは誰だ？

宮形佳孝 (630-8303 奈良市南紀寺町)

Who ate the turtle (*Mauremys reevesii*) ?

By Yoshitaka MIYAGATA (Minamikideracho, Nara, 630-8303, Japan)

2014年6月28日(土), 筆者の実家(大阪府茨木市北春日丘)の庭で甲羅を残し, 四肢と頭部を食いちぎられたクサガメ*Mauremys reevesii*の被食死体を見つけた。この個体は2002年8月に松沢池(大阪府茨木市北春日丘)で採集したクサガメの幼体を飼育していたものである。池のサイズは幅約3m, 深さ約70cm(図1)。死亡した時の甲長はおおよそ15cmであった。死体を発見した前週の6月22日(日)の17時頃には, 池で遊泳する本個体を確認していた。死体発見時にはウジが発生していたことから, その後何者かに襲われたと思われる。その他には, ウシガエル*Rana catesbeiana*幼体の頭部が2個体確認され, その1週間後にもウシガエルの幼体1個体の死体が確認された。このことから捕食者は, この池を索餌場として繰り返し訪れていると考えられた。

そこで赤外線センサーカメラ(GISupply社製, 機種名:SG968K-10M)を同年7月11日(金)から9月

5日(金)まで, 57日間設置し定点撮影を試みた(図2)。その結果, 同年7月26日(土)23時27分と9月1日(月)23時53分に撮影された画像には, 池の水面を探る動物が写っていた(図3)。長いふさふさとした尾に黒い横縞がある特徴からアライグマ*Procyon lotor*と思われる。



図1. 筆者の実家の庭(池)



図2. 赤外線センサーカメラ



図3. 池の水面を探るアライグマ(2014年7月26日)

今回の調査では、アライグマがクサガメを襲うところを直接確認できたわけではないが、淡水性カメ類のアライグマによる被食が報告されていることから(小賀野他, 2010), 本事象はアライグマによるものであったと推察される。

引用文献

小賀野大一・小林頼太・小菅康弘・篠原栄里子・長谷川雅美. 2010. 淡水性カメ類の被食被害:房総半島における発生事例. p.493, 生態学会大会企画委員会(編). 第 57 回日本生態学会大会講演要旨集 . 日本生態学会, 京都. (講演要旨)

屋久島におけるミシシippアカミミガメ(?)視認の報告

吉村雅子

岡山ため池外来種調査会

The record of *Trachemys scripta elegans* in Yakushima Island.

By Masako YOSHIMURA

The research group of the introduced species in the reservoirs at the Okayama plains

2013年9月5日午前中, 鹿児島県屋久島男川河口にて素潜り中, 水深約50cmの水底にミシシippアカミミガメと思しきカメ(図1)を認めたので報告する。大きさは成人男性が指を広げてつかむ程度の大きさであった。雌雄は不明である。水は濁ってはいなかった。水底は石が多かった。水温, 気温は不明である。天候は晴れ(台風一過)であった。

その日, 川の素潜りツアーでお世話になった屋久島マリンサービスYMSのガイド榎田氏によれば「島のお祭りでカメを売っている」とのことであった。男川は屋久島の中でも人口密度の高い地域を流れる川である。「島のお祭りでカメを売っている」ことが目視したミシシippアカミミガメと思しきカメの存在に濃厚に関与しているものと推測する。



図1. 屋久島男川にいたミシシippアカミミガメと思しきカメ